


6. 創作活動


No.	601	<h1>レザークラフト</h1>			
概要	レザー(革)に模様を付けたり色を塗ったりして、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	40人	時間	2~3時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ 職員・講師による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 革の特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設からの貸出	レザークラフト 用具一式 (画材含む。最大40セット、12班分)			
	団地で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ キーホルダー ○ コースター ○ 小銭入れ ○ 創作レザー			
	確認事項	教材の種類や活動人数などにより、活動時間が異なりますので、事前にご相談ください。各自が異なる教材で制作する場合も、制作過程が異なる部分がありますので、事前にご相談ください。			




	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・レザークラフトの基礎知識(革の特性、技法などの紹介) ・作り方 ・道具と画材の取り扱い方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴム板…重いので、持ち運び注意。 ・木づち…指を叩いたり、振り回さない。 ・染料 …服などに付くと落ちない。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 打刻 <ul style="list-style-type: none"> ・レザーをぬらし、刻印棒で模様を打ち付ける。 2) 染色 <ul style="list-style-type: none"> ・色を付けて、ドライヤーで乾かす。 3) 色止め <ul style="list-style-type: none"> ・ニスを塗って、ドライヤーで乾かす。 4) 仕上げ① <ul style="list-style-type: none"> ・みがき布でみがいて、つやを出す。 5) 仕上げ② <ul style="list-style-type: none"> ・キーホルダー…金具を付ける。 ・小銭入れ …縫い合わせる。 ・創作レザー…形を整える(切る、曲げる、折る)、貼り合わせる 等 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・刻印の組合せを工夫することで、様々な模様を表現できる。 ・色の組合せや塗り方を変えることで、同じ模様でも異なる印象に仕上がる。 ・小銭入れの仕上げは講師が一人ずつ指導するため、時間がかかる。十分な時間を確保すること。

No.	602	<h1>ガラス工芸</h1>			
概要	専用の機械(サンドブラスター)でガラス表面を削って模様を付けて、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	~40人	時間	3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察・指導				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガラスの特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設から貸出	ガラス工芸 用具一式			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 中皿 ○ マグカップ			
	確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラスに模様を付けるサンドブラスターの数に限られているため、予め十分な制作時間をとってください。又、切り抜く下絵が細かいほど時間がかかります。 ・教材のサイズにあわせて事前に下絵を準備しておくことで作業時間を短縮できます。 			


	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・種類と個数を確認し、研修場所へ持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、安全上の注意 等 ・道具の紹介(個人で使う道具/グループで使う道具) ○ ガラス工芸の技法、作り方について <ul style="list-style-type: none"> ・模様(傷)がつく原理 ・作り方 ・ブラスターの使い方 ○ 道具の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・アートナイフで怪我をしないように安全な使い方や保管の仕方を守る。 ・(作品を割らないために)机上で作業する。両手で持ち歩く、走らない。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 下絵を描き、切り抜く。 <ul style="list-style-type: none"> ・下絵を描く。 ・カーボン紙を使って、マスキングテープに書き写す。 ・教材にマスキングテープを貼る。 ・アートナイフでマスキングテープを切りぬく。 2) 模様を付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ブラスターガンで模様を付ける。 ・マスキングテープをはがし、作品を水洗いする。 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・切り抜くところ、残すところを考えながら描くようにする。 ・下絵があまり細いと切り抜く作業が大変である。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・作品を持ち帰る際は割れないように新聞紙等に包むことを勧める。(記名も忘れずに)

No.	603	絵付け			
概要	素焼き教材に絵付けをし、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	~40人	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察				
ねらい	<input type="checkbox"/> 陶器の制作過程に触れ、自分なりに表現することを楽しむ。 <input type="checkbox"/> 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準備	施設から貸出	絵付け 用具一式(画材含む)			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 <input type="checkbox"/> 素焼きの皿(大/中) <input type="checkbox"/> 素焼きの湯のみ(大/中)			
	確認事項	絵付けをした作品の本焼きには数日かかります。研修を予約する際に、窯入れと窯出しの日程も併せてご確認ください。			


	内 容	留意事項
活動前	<input type="checkbox"/> 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 <input type="checkbox"/> 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所へ持って行く。	<input type="checkbox"/> 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 <input type="checkbox"/> 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<input type="checkbox"/> 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 <input type="checkbox"/> グループ毎に道具を準備し、教材を配布する。 <input type="checkbox"/> 講師による説明 ・絵付けの基礎(特性、技法 等)の紹介 ・作り方、道具と画材の取り扱い方 等 ・作業中の注意事項について	<input type="checkbox"/> 安全上の注意 (作品を割らないために) ・机上で作業する。 ・両手で持ち歩く、走らない。
展 開	<input type="checkbox"/> 制作 1) 下準備 ・スポンジで教材についている粉を落とす。 ・高台に撥水剤をぬる。 ・高台の内側に、日付、団体名、氏名を書く。 2) 絵付け ・陶芸用絵の具で器に絵(または模様、文字)を描く。 3) 仕上げ ・釉薬をつける。 <input type="checkbox"/> 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 <input type="checkbox"/> ふり返り ・感想 <input type="checkbox"/> 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。 <input type="checkbox"/> その他 1) 「素焼き、本焼き依頼書」を提出。 ・窯入れする作品数を確認し、引率者が記入。 (担当職員に提出してください。) ・本焼き完了(窯出し)の予定日を確認。 2) 作品を窯(屋外創作棟内)まで運ぶ。	<input type="checkbox"/> 制作のポイント ・絵具の重ね塗りは、なるべく避ける。 ※焼成時に重ね塗りの部分が剥がれ落ちる場合があります。 <input type="checkbox"/> 作品の運搬 研修場所から窯までの作品の運搬は原則、団体が職員と一緒にいるが、天候等の状況により不可の場合は後日、職員が代行する。 <input type="checkbox"/> 本焼き(窯入れ、窯出し) ・作品の焼成はサン・レイクの電気窯で講師と職員が行う。 <input type="checkbox"/> 作品の引き渡し ・窯出し後、来所のみ。

No.	604	作陶			
概要	講師の指導により、作陶について知り、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	10人程度	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による監視				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土の感触を楽しみながら、自分なりの工夫や表現で制作することの喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設から貸出	作陶に必要な用具一式			
	団体で準備	【教材】* 10kg単位で、事前に「教材等申込書」で注文してください。 ・ねん土(A-2ねん土)…1人あたり1kgが目安。(湯飲み、小皿ができる。) 【その他】 ・余った粘土を持ち帰る袋とタオル			
	確認事項	・どんなものを作るのか、事前に担当者でご相談ください。 ・作陶後に行う作業(素焼き、絵付け、本焼き)の日程について予約と打合せが必要です。 ・余った粘土は、団体が持ち帰ってください。			

	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・分量を確認し、研修場所へ持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品不可。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の紹介 ○ 講師からの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・作陶の仕方、作り方、用具の扱い方 ・作業中の注意事項等について ○ 道具の準備、教材の分配 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・道具を正しく使い、安全に活動する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 土練り <ol style="list-style-type: none"> ① 荒練り(ねん土の外側と中側の水分を均等化する) ② 菊縛り(空気を抜く) 2) 成形 <ul style="list-style-type: none"> どちらかの方法で作品を作る。 ・ろくろを使う。 ・ねん土を板条やひも状にのばす。 3) 収納、保管 <ul style="list-style-type: none"> ・ケースまたは乾燥棚に収納し保管。 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞、感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 ○ その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「素焼き、本焼き依頼書」を提出 <ul style="list-style-type: none"> ・窯入れする作品数を確認し、引率者が記入。(担当職員に提出してください。) 2) 作品を窯(屋外創作棟内)まで運ぶ。 ※ 3) 後日の制作(日程と内容)を確認、予約 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・作品は器に限らず、自由に作るができるが、小さなものほど焼いた際に割れるリスクが高くなるので注意が必要。(土練りの状態により、窯で焼いている最中に割れることがあります。) ・作陶では、 <ul style="list-style-type: none"> 「素焼きの状態で作成」 「釉薬のみかけて完成」 「絵付け後釉薬をかけて完成」等 色々な段階の終わり方がある。 ○ 作品の運搬 <ul style="list-style-type: none"> ※研修場所から窯までの作品の運搬は原則、団体が職員と一緒にいるが、天候等の状況により不可の場合は後日、職員が代行する。 ○ 素焼きと本焼き(窯入れ、窯出し) <ul style="list-style-type: none"> ・作品の焼成はサン・レイクの電気窯で講師と職員が行う。 ○ 後日の作業工程 <ol style="list-style-type: none"> ① 乾燥(2週間程度) ② 素焼きして、窯出し(1週間程度) ③ 絵付け・釉薬かけ…要予約。 ④ 本焼きして、窯出し(1週間程度) ⑤ 作品の引き渡し (作品の引き渡し方法は来所のみ。)

No.	605	<h1>七宝焼</h1>			
概要	銅板の上に絵の具や飾り(フリット)を盛り付けて、卓上の電気窯で焼成し、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	~40人	時間	2~3時間	
	対象	小学1年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察・指導				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 七宝焼の技法を知り、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設から貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・七宝焼き 用具一式(画材含む) ・瞬間接着剤 ・研磨補正用のグラインダー ・軍手 			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ キーホルダー(角型/丸型/小判型)			
	確認事項	各自が異なる教材で制作したいなど、要望があれば担当者にご相談ください。			

	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ・火傷への配慮をする。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品可能(特別なものを除く)。 ・教材の裏面を確認。 (下地が焼き付けられていない場合は、表面の制作前に下地絵具の焼成が必要。)
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・七宝焼の基礎知識(ルーツ、特性、技法などの紹介) ・作り方(絵手七宝/フリット七宝) ・画材と道具の取り扱い方(注意事項)について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 <ul style="list-style-type: none"> <火傷に注意> ・焼成した作品はよく冷めてから触る。 ・電気窯を素手で触らない。 ○ 電気窯 <ul style="list-style-type: none"> ・焼成は、講師または職員が行う。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 *説明を聞き、いずれかの技法を選んで、制作する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 絵手七宝 </div> <ol style="list-style-type: none"> ①下地となる絵具を盛りつける。 ②電気窯で焼く。 ③冷ます。 ④下地の上に模様を盛りつける。 ⑤電気釜で焼く。 ⑥金具に取り付けて完成。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> フリット七宝 </div> <ol style="list-style-type: none"> ①下地となる絵具を盛りつけ、その上にフリットを乗せる。 ②電気窯で焼く。 ③冷ます。 ④金具に取り付けて完成。 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓。 ・机、床、流しの周りの掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・絵具やフリットは、銅板からはみ出さない分量を盛る。盛りすぎ注意。 ・焼成は、通常1回まで。銅板の耐性から、絵手七宝の場合でも3回位までとする。 ○ 絵具の取り扱い方について <ul style="list-style-type: none"> ・別の色の粒子が混ざらないよう注意。 ・画材の特性上、混色不可。

No.	606	焼き杉			
概要	杉板を切ったり、模様や文字を焼き付けたりして、オリジナル作品を作る。				
内容	人数(人)	～40人	時間	3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察・指導				
ねらい	○ 木の特性をいかし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準備	施設から貸出	・白化粧泥 ・ブルーシート ・ガスバーナー ・電動系のこ ・金づち ・ラジオペンチ ・紙やすり			
	団体で準備	【教材】 * 事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 杉板 ○ 吊り下げ用くさり(必要な場合のみ注文) 【その他】 * 各自で用意してください。 ・えんぴつ、消しゴム ・軍手			
	確認事項	・電動系のこの台数に合わせて、予め活動グループ数と人数を決めておいてください。 ・教材のサイズにあわせて下絵を準備してくると作業時間を短縮できます。			

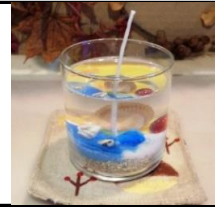
	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所へ持って行く。	○ 安全管理 ・職員と引率者で持ち場を分担する。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・めあて、安全上の注意 ・作成手順、系のこの使い方、焼き方の説明 ○ 教材の配布	○ 電動系のこの配置 ・各グループで1台を共有する。
展開	○ 制作 1) 杉板を好きな形に切り取る。 ・杉板に下絵を描く。 ・杉板を電動系のこで切る。 2) 泥を乗せる。 ・焼き色を付けないところ(模様や文字等)に化粧泥を乗せる。 3) 模様や文字を焼きつける。 ・杉板の表面をガスバーナーで炙って焦がす。 ・杉板の表面の化粧泥を水洗いする。 3) 仕上げ ・杉板が乾いたら、くさりを取り付ける。 ・紙やすりで、板の切り口を滑らかにする。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・電動系のこ、机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○安全上の注意 ・道具の正しい使い方を守る。 <電動系のこ> ・刃の取付と交換は必ず大人が行う。 ・使用しないときは、必ず電源のスイッチを切り、コードを抜く。 <ガスバーナー> ・屋外の安全な場所で使用する。 ・作業中は必ず大人が立ち会う。 ○ 制作のポイント ・できあがりを考えて化粧泥を乗せる。 ・輪郭線はくつきり焼き付ける。 ・焼きムラ等、濃淡を工夫できる。 ○ 片付け <電動系のこ> ・電源スイッチを切り、コードを抜く。 ・刃を取り外す(大人が作業)。 ・木くずを取りのぞいてから返却する。 <ガスバーナー> ・ガス栓がしまっていることを確認し、 屋内の所定の場所に返却、保管。

No.	607	<h1>プラ板</h1>			
概要	プラスチックの特性を活かし、加工(模様や文字を描き、焼く)してオリジナル作品を作る。				
内容	人数(人)	~40人	時間	2時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	<input checked="" type="radio"/> 自主活動 <input type="radio"/> 職員による事前の説明のみ <input checked="" type="radio"/> 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察・指導			
ねらい	○ プラスチックを加熱すると縮む特性を楽しむ。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準備	施設から貸出	・鉛筆、消しゴム、色鉛筆、マジックペン(油性) ・はさみ ・穴あけパンチ ・軍手 ・オープントスター ・延長コード ・ピンセット ・押さえ板 ・ラジオペンチ ・資料(サイズ見本、下絵)			
	団体で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数に合わせてご注文ください。 ○ シュリンクシート(白/透明) ○ 金具(キーホルダー/ブローチ) 【その他】 *必要に応じて、準備してください。 ・資料(書き写したい下絵)			
	確認事項	・どんな作品を制作するのか、事前に考えておくと時間短縮できます。 ・シュリンクシートは切り分けて使用できます。余った端材で、追加して作ることもできます。ただし、金具の当日追加はできません。(事前注文のみ)			




	内 容	留意事項
活動前	○ 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所へ持って行く。	○ 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	○ 職員による説明 ・めあて、安全上の注意 等 ・制作の手順、技法 ・道具や画材の取り扱い方、注意事項 ○ 道具の準備	○ 安全上の注意 <オープントスター> ・作品の出し入れは、大人が行う。 ・軍手を着用する。 ・作品はよく冷ましてから、触る。
展 開	○ 制作 1) 下絵を描いて、輪郭を切りとる。 ・シュリンクシートに下絵を描き、色を塗る。 ・絵に沿って切り抜く。 ・キーホルダーは、金具を取り付けるための穴も開ける。 2) 焼成する。 ・オープントスターで加熱し、縮みが止まったら取り出す。 ・熱くて柔らかいうちに押さえ板で挟んでしっかりと押さえる。 3) 金具を取り付ける。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	○ 制作のポイント <シュリンクシート> ・加熱すると約1/6に縮む。 ・透明は、溶けやすく伸びやすい。 ・白は、加熱時に丸まりにくい。 <下絵、キーホルダーの穴> 出来上がりのサイズを考慮して、 ・絵は大きめに描く。 ・穴も焼く前に大きめに開ける。 <着色> ・焼いて縮むと、少し濃いめの色になる ので、マジックで塗るより色鉛筆の方 が明るい発色に仕上がる。


No.	608	<h1>ジェルキャンドル</h1>			
概要	ガラスの器に砂を敷いたり、ビー玉や貝殻などの飾りを入れたりした後、ジェルを流し込んで固めてオリジナルキャンドルを作る。				
内容	人数(人)	~40人	時間	2時間	
	対象	小学3年生以上	時期	通年	
	場所	創作室(第1・第2)			
	指導形態	自主活動 ・ 職員の事前の説明のみ ・ 職員による直接指導			
	安全管理	引率者と担当職員による観察と指導			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飾りなどの組み合わせやジェルの色や流し方を工夫し、制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設から貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・用具一式 (カセットコンロ、なべ、やかん、ピンセット、アルミ箔、両面テープ、割り箸、軍手 等) ・飾り(砂、ビー玉、貝殻 等) ・染料液 			
	団体に準備	<p>【教材】 * 事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ ジェルキャンドルセット(キャンドル用ジェル、ガラス、着火用芯)</p> <p>【その他】 * 必要に応じて準備してください。 ・飾りとして入れたい物(不燃性、耐熱性の物)があれば、各自で準備。</p>			
	確認事項	飾りとして、別途「プラ板」を事前に制作しても良い。(別途制作時間が必要です。)			




	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・制作手順 ・注意事項 ・道具と教材の取り扱い方 ○ 道具の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ガス缶、コンロの取扱注意。 ・大人と一緒に作業する。 ・適宜、換気をしながら作業する。 ・軍手を適宜使用し、火傷に注意する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 砂や飾りを入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・着火用芯をガラスの底に付ける(立てる)。 ・ガラスの中に好きな色の砂を入れる。 ・砂の上に飾りを飾る。 2) ジェルを溶かす。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンドル用ジェルを必要な分量だけ湯煎して、溶かす。 ・(染料を加える場合)湯煎したジェルに数滴加え、かき混ぜる。 ・冷めて固まったら、繰り返しまた湯煎で溶す。 3) ジェルを流し入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・溶けたジェルを少し冷まし、ガラスに注ぎ入れる。 ・ジェルが冷めて固まったら、出来上がり。 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ジェル> <ul style="list-style-type: none"> ・かき混ぜると気泡が入るので、好みの出来栄えに加減して混ぜる。 ・半量固めて飾りを追加する等、何層かに分けてガラスに注ぐことも可。 ・火にかけたまま放置しない。(ジェルは煙が出るくらい高温になると、黄色く変色する。) <飾り> <ul style="list-style-type: none"> ・可燃物は使用しないこと。(ジェルが高温になるため。)

No.	609	<h1>トールペイント</h1>			
概要	専用の板に色々な技法を使って、絵や模様を描く。 完成品は、レリーフなどに使える。				
内容	人数(人)	～40人	時間	2～3時間	
	対象	小学5年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
指導形態	自主活動 ・ 職員の事前の説明のみ ・ <u>職員・講師による直接指導</u>				
安全管理	引率者と担当職員による観察				
ねらい	<input type="checkbox"/> アクリル絵具の特性を活かし、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 <input type="checkbox"/> 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準備	施設から貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・細目の紙ヤスリ、下地剤、アクリル絵の具、ドライヤー ・紙パレット、筆洗い用バケツ、筆(平筆/丸筆/刷毛)、綿棒、爪楊枝、キッチンペーパー 等 (紙パレットは、牛乳パックなどでも代用可) ・下絵用紙、トレーシングペーパー、片面カーボン紙、鉄筆、鉛筆、消しゴム ・ニス、定着剤スプレー 			
	団地で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 <input type="checkbox"/> 「プラーク丸」…円形 <input type="checkbox"/> 「飾りレリーフ」…四角波長形(壁掛用金具付)			
	確認事項	教材の種類や活動人数などにより、活動時間が異なりますので、事前にご相談ください。			

	内 容	留意事項
活動前	<input type="checkbox"/> 担当職員との打ち合わせ ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理 等 <input type="checkbox"/> 注文した教材の受け取り ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。	<input type="checkbox"/> 安全管理 ・引率者と担当職員が一緒に行く。 <input type="checkbox"/> 教材 ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<input type="checkbox"/> 職員による説明 ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 <input type="checkbox"/> 道具の準備 <input type="checkbox"/> 講師による説明 ・トールペイントの基礎知識(ルーツ、技法等)の紹介 ・作り方、道具と画材の取り扱い方 等	<input type="checkbox"/> 安全上の注意 ・道具を正しく使い、安全に活動する。 <定着剤スプレー> ・換気が良い場所で使用する。 (屋外、窓際など)
展 開	<input type="checkbox"/> 制作 1) 下地剤を塗る。 ・表面に紙ヤスリを掛ける。 ・下地剤を塗り、ドライヤーで乾かす。 2) 地塗り ・背景色を塗り、ドライヤーで乾かす。 3) 絵、模様、文字を自由に描く。 ・下書きをする。 ・色を塗って、乾かす。 4) 仕上げ ・ニス(または定着剤スプレー) …全体に塗り、乾かす。 ・金具を付ける。 <input type="checkbox"/> 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 <input type="checkbox"/> ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 <input type="checkbox"/> 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。	<input type="checkbox"/> 制作のポイント ・広い面から順番に塗り重ねる。 <地塗り> ・全体を白で塗ってから好きな背景色を塗り重ねる。 ・好みにより、地塗りをせずに、白木のまま描き始めても良い。 <アクリル絵の具> 色を塗り重ねるときは、 ・必ず下の色が乾いてから塗る。 ・「下の色が透けない程度」が目安。 色の濃淡は、水で薄めるのではなく、 ・混色で調整する。 ・絵の具に水気が混ざらないように、筆の水分をキッチンペーパーで取る。 ・色が薄ければ、乾かして何度も塗る。 (水泡が無いように注意)

No.	610	絵てがみ・てん刻印			
概要	モチーフをよく観察して構図を考え、絵を描き、言葉を添えて、オリジナル作品を制作する。				
内容	人数(人)	～40人	時間	2時間	
	対象	小学1年生以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ ・ 職員・講師による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵手紙の技法を知り、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。 				
準備	施設から貸出	【絵手紙】 ・新聞紙 ・赤ペン ・墨、墨入れ、筆(墨専用/色付用)、絵具(顔彩)、絵皿、筆洗い用バケツ 【てん刻印(消しゴムハンコ)】 ・4Bの鉛筆 ・カッター(またはアートナイフ) ・ハサミ ・透明プラ板の端材 ・朱肉			
	団地で準備	【教材】 *いずれかを選んで、事前に「教材等申込書」で制作数をご注文ください。 ○ 絵てがみセット(ハガキ2枚、線描きの練習用半紙1枚) ○ てん刻消しゴム(1個)…ハガキとセットではありません。別途、注文が必要です。 【その他】 ・絵てがみに描きたいモチーフとなる物(自然物、身の回りの持ち物など)。 ・てん刻印を持っている人は、持ってきて使用しても良い。			
	確認事項	【事前に相談】 ・モチーフの調達方法 (自宅等から持参/施設の敷地内または周辺を散策して採取)。 ・てん刻印を作る場合は、別途所要時間が必要です(およそ30分～1時間)。			

	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当職員との打ち合わせ <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいの共有 ・参加人数、グループ編成 ・安全管理体制 等 ○ 注文した教材の受け取り <ul style="list-style-type: none"> ・種類と個数を確認し、研修場所に持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 <ul style="list-style-type: none"> ・引率者と担当職員が一緒に行く。 ○ 教材 <ul style="list-style-type: none"> ・返品可能(特別なものを除く)。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・講師の紹介 ・めあて、安全上の注意 等 ○ 道具の準備 ○ 講師による説明 <ul style="list-style-type: none"> ・絵てがみの描き方(線の書き方、色のぬり方、モチーフの見方) ・制作する上で、気を付けること ・道具と画材の取り扱い方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 注意事項 <ul style="list-style-type: none"> <絵てがみ> <ul style="list-style-type: none"> ・墨で、衣服を汚さないように注意。 ・2種類の筆を用途別に使い分ける。(線を描く墨専用の筆/色付用の筆) <てん刻印> <ul style="list-style-type: none"> ・刃物の取り扱いに気を付ける。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 <ol style="list-style-type: none"> 1) 練習 <ul style="list-style-type: none"> ・筆の使い方…墨用の筆の端をつまんで持つ。 ・線の描き方…半紙に墨でゆっくり描く。(縦線、横線、曲線) 2) 1枚目の作品を制作する。 <ul style="list-style-type: none"> ・墨で輪郭を描いて、色を塗り、言葉を添える。 ・てん刻印を捺す。(又は、手書きサインを書き加える。) 3) 2枚目の作品を制作する。 ○ 片づけ、掃除 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り <ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント <ul style="list-style-type: none"> <絵てがみ> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶっつけ本番で下書きはしない。偶然生まれる輪郭の太さや滲みなども味のある表現ととらえる。 ・モチーフをよく観察し、構図を考える。画面いっぱいにはみ出すように輪郭を描く。 ・余白も大切に作る。色を塗るときは、塗り残す部分も作る。 <てん刻印> <ol style="list-style-type: none"> 1) 名前等を下書き <ul style="list-style-type: none"> ・てん刻消しゴムに鏡文字で書く。 2) アートナイフ等で削る。 <手書きサイン> <ul style="list-style-type: none"> ・てん刻印を作らない場合は、赤ペン等で落款印風に書き入れる。

No.	611	<h1>自然のクラフト</h1>			
概要	自然物を組み合わせて、オリジナル作品を制作する。 (フォトフレーム、葉っぱのスタンド、ストーンペイント、流木アートなど)				
内容	人数(人)	~40人	時間	2~3時間	
	対象	幼児以上	時期	通年	
	場所	創作室【第1・第2】			
	指導形態	<input checked="" type="radio"/> 自主活動 <input checked="" type="radio"/> 職員による事前の説明のみ <input checked="" type="radio"/> 職員・講師による直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による観察・指導				
ねらい	○ 自然物を使った制作活動を通して、自分なりの工夫や表現で制作することの楽しさや喜びを感じる。 ○ 互いの作品の工夫や表現を共有する。				
準備	施設から貸出	【各グループに貸出】 ・工具 … カッター、のこぎり、ナイフ、はさみ、ダンボールカッター、ニッパー、ラジオペンチ、きり、グルーガン ・画材 … アクリル絵の具、バケツ筆洗い、色鉛筆、油性ペン、木工用ボンド			
	各自に貸出	【各自に貸出】 ・筆 ・ペーパーパレット ・軍手(大人用/子ども用)			
	団地で準備	・教材 … 自然物(落ち葉、木切れ、木の実、木の葉、種子、石、貝殻、流木 など) ・画材 … ダンボール、画用紙など(必要に応じて) ・いれもの … 袋または箱(採取した教材や作った作品を持ち運ぶ用)			
	確認事項	【事前に相談】 ・教材の調達方法(事前に採取して持参/研修前に施設周辺で集める)。 ・活動のねらいに合わせて、どんな材料と道具を使用するか。			

	内 容	留意事項
活動前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材を準備する。 ・形や色など、気に入った自然物を集めておく。 ○ 担当職員との打ち合わせ ・安全管理 ・作業スケジュール ・片づけ、点検方法の確認 ○ 道具を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全管理 ・引率者と担当職員が行う。 ・火傷等への配慮をする。 ○ 教材の採集について ・採取場所、採取物を工夫する。 (森、林、中央湖、海岸、河川、など) ・事前に採取して持参するか、または当日に施設周辺を散策して採取する。
活動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明を聞く。 ・作るもの、作り方、テーマ など ・道具の使い方 ・安全上の注意 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全上の注意 ・道具を正しく使い、安全に活動する。 ・やけどや切り傷に注意。 ・グルーガン、のこぎりを使用する際は必ず大人が立ち会う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作 1)教材を観察 ・自然物の色や形などを観察して、創るものを決める。 ・集めた自然物の特徴(形や色)を生かして、創作する。 2)作業 ・パーツを切ったり、接着したり、塗装したりして、仕上げる。 ○ 片づけ、掃除 ・道具の返却、整頓 ・机、床、流し周辺の掃除 ○ ふり返り ・作品鑑賞 ・感想 ○ 研修室の点検、退室 ・椅子を机の上に並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作のポイント ・集めた自然物を利用し、楽しく自由に思い思いの作品を作る。 ・研修のねらいに応じて、テーマを決めたり、共同制作に取り組んだりしてもよい。 ○ 片付けについて ・協力して、片づけと掃除をする。 ・持ち込んだ物のゴミは、持ち帰る。 ○ 作品鑑賞 ・出来上がった作品を見せ合い、それぞれの作品の制作過程で工夫した点などを発表しあう。